

『第1回SSH理系女子育成プログラム』を開催しました

6月29日(日)、八戸工業大学において、同大学工学部工学科生命環境科学コース 教授 鮎川 恵理氏、同コース 教授 星野 保氏、基礎教育研究センター 教授 竹浪 二三正氏、建築・土木工学コース 准教授 福士 譲氏、同コース 講師 外里 健太氏 を講師としてお迎えして、第1回SSH理系女子育成プログラムを開催いたしました。SSH理系女子育成プログラムは昨年度から始まりました。理系分野で活躍する女性の将来像を考える機会を設けることを目的としたプログラムで、年3回のプログラムを実施する構成となっており、今回が第1回となります。今年度の新たな取り組みとして、八戸高校への参加を呼びかけたところ1年生2名が参加してくれたことで、他校の生徒と理系女子のキャリアについて考え、交流する場にもなりました。本校生徒13名、八戸高校2名の計15名の女子生徒が参加しました。

午前には、鮎川先生より「どうやって選ぶ？—理系の学部や仕事—」という演題で、理系学部の幅広い分野の紹介と理系女子のロールキャリアモデルの紹介をしていただきました。その後、2グループに分かれ、竹浪先生より「サイコロを使って確率を考えよう」という演題でサイコロの出目を確率的に考える演習を、星野先生より「身近な微生物の観察」という演題で身近に存在する細菌類、菌類を顕微鏡で観察する実習を行いました。午後には、3グループに分かれ、外里先生より「土の性質と地盤災害」という演題で、福士先生より「建築どうでしょう？～幾何学と身体性の間で～」という演題で、鮎川先生より「コケですけど何か？～キャンパス内のコケの観察～」という演題で、それぞれ学校では体験しにくい実験・実習を行いました。

活動後の生徒の振り返りでは、「研究以外にも色々な分野で活躍していることが分かりました。」「自分の興味のある分野に関する研究ができるのは素晴らしいことだと感じた。」等の所感が寄せられました。また、「自分の将来を自由にかつ前向きに捉えられるようになりました。」「私は今回の活動から、理系女子の将来や研究活動に対する考え方が変わった。」「自分の関心のあるものをさらに深められるのが魅力的だと思った。今後の進路を考える際に参考にしたい。」等、考え方や視野が広がったという所感が寄せられました。

○講演の様子

